

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成24年7月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成24年6月分(平成24年6月4日～平成24年7月1日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	29	0.06	0.07	↓	10	百日咳	27	0.09	0.13	↘
2	RSウイルス感染症	25	0.09	0.06	↘	11	ヘルパンギーナ	376	1.31	1.52	↑
3	咽頭結膜熱	153	0.53	0.85	↘	12	流行性耳下腺炎	110	0.38	0.71	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	547	1.90	1.77	↘	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.03	
5	感染性胃腸炎	1,558	5.41	4.66	↘	14	流行性角結膜炎	80	1.05	1.25	→
6	水痘	297	1.03	1.84	→	15	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	手足口病	32	0.11	2.30	↗	16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.04	
8	伝染性紅斑	66	0.23	0.40	↗	17	マイコプラズマ肺炎	29	0.35	0.25	↘
9	突発性発しん	194	0.67	0.74	↗	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成24年6月分(6月1日～6月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	51	2.22	2.34	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	130	6.19	5.88	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.72	↘	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	18	0.86	1.78	↘
21	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.71	↘	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	14	0.61	0.99	↘	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.13	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 ヘルパンギーナ(102件→376件)
- 急減疾患 インフルエンザ(241件→29件)

### 発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名（管轄保健所）
一類	0	発生なし
二類	57	結核(57)〔西部保健所(11), 西部東保健所(4), 東部保健所(6), 北部保健所(1), 広島市保健所(27), 呉市保健所(5), 福山市保健所(3)〕
三類	18	腸管出血性大腸菌感染症(18) O157(2)〔広島市保健所〕, O26(15)〔広島市保健所(1), 呉市保健所(14)〕, 不明(1)〔東部保健所〕
四類	10	A型肝炎(2)〔広島市保健所〕, つつが虫病(1)〔北部保健所〕, デング熱(1)〔西部保健所〕, 日本紅斑熱(3)〔東部保健所〕, レジオネラ症(3)〔東部保健所(2), 呉市保健所(1)〕
五類全数	9	アメーバ赤痢(1)〔福山市保健所〕, ウイルス性肝炎 B型(1)〔広島市保健所〕, 急性脳炎(2)〔西部東保健所, 広島市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所〕, バンコマイシン耐性腸球菌感染症(1)〔広島市保健所〕, 風しん(2)〔広島市保健所, 呉市保健所〕

## 3 一般情報

### (1) 海外で注意が必要な感染症について

夏休み期間中は、海外へ旅行などされる方も多い時期です。海外で感染症から身を守るためには、感染症に対する正しい知識と予防方法を身につけることが大切です。海外で注意が必要な感染症をいくつか紹介します。

#### ● 食べ物や水を介する感染症【コレラ, 細菌性赤痢, 腸チフス, A型肝炎など】

発展途上国など公衆衛生の整備が不十分な地域で感染することが多い感染症です。このような地域では、食品は十分加熱されたものを喫食し、サラダや果物、氷などにも注意しましょう。また、生水は飲まないようにしましょう。

#### ● 蚊が媒介する感染症【マラリア, デング熱, ウエストナイル熱, 黄熱など】

アジア, 中南米, アフリカなどの熱帯・亜熱帯地域では、マラリア, デング熱などが広く流行しており、蚊に刺されない対策が重要です。虫除け剤や蚊取り線香を積極的に利用し、長袖や長ズボンの着用を心がけてください。

※ 広島県でも平成24年に2件のデング熱の発生報告(インドネシア, タイから帰国された方)がありました。

#### ● 動物からうつる感染症【狂犬病, 鳥インフルエンザなど】

狂犬病は、日本やイギリス等の一部の地域を除き、世界中で報告されていますが、発症してしまうと有効な治療法はなく、ほぼ100%死亡します。飼い主のわからない犬等(猫, 野生動物)との接触を避け、もしも犬等に咬まれた場合は傷口を石鹸と水でよく洗い、速やかに医療機関を受診し、狂犬病ワクチンを接種してください。

また、鳥インフルエンザは、東南アジアを中心に発生し、人へは感染した鳥との濃厚接触によって感染します。

人が感染した場合には、重篤な症状となることが多いことから、生きているニワトリやアヒルなどが売られている市場や養鶏場にむやみに近寄らないようにし、日頃から手洗いやうがいを励行しましょう。

出発前に渡航先の感染症の流行状況等に関する情報を入手することが大切です。また、必要な予防接種は受けておくなど適切な感染症予防をお願いします。

なお、詳しい情報は、こちらのホームページをご覧ください。

○ 厚生労働省ホームページ「2012年夏休み期間中における海外での感染症予防について」

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/travel/2012summer.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel/2012summer.html)

○ 厚生労働省検疫所ホームページ <http://www.forth.go.jp/> 【感染症発生状況, 予防接種等】

○ 外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/> 【感染症発生状況】

### (2) ヘルパンギーナについて

ヘルパンギーナは夏季に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる“夏かぜ”の代表的な疾患ですが、定点医療機関の患者報告数では、5月の102件から6月は376件と大きく増加しました。

病原体	主としてA群コクサッキーウイルス
症状	突然の発熱に続いて咽頭粘膜の発赤が顕著となり、口腔内に小水疱が現れます。小水疱はやがて破れ、疼痛を伴います。潜伏期間は3～5日とされています。 ・ 喉や口の中が痛く、食事が摂りにくい場合は、あまり嘔まずに飲み込めるやわらかい物を与えましょう。 ・ 高熱が出ているときには、脱水状態にならないよう、水分の補給を充分に行ってください。
感染経路	接触感染を含む糞口感染と咳などによる飛沫感染です。急性期に最もウイルスが排出され感染力が強いのですが、回復後も2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されます。
予防方法	乳幼児のオムツ交換の際には、手洗いを励行し、洗濯物は日光で乾かすことなどです。

### (3) 感染性胃腸炎警報の解除について

広島県感染症発生動向調査による平成24年第26週(6月25日～7月1日)の定点医療機関から報告のあった感染性胃腸炎患者報告数が、県内すべての保健所管内で警報継続基準値(定点当たり12)未満となったため、平成23年12月28日に発令した「感染性胃腸炎警報」を平成24年7月5日に解除しました。